

# 青少年委員だより

日常が戻った喜び

第163号



東京都青少年委員会連合会城北ブロック研修会

本年4月に文化共育部長に着任いたしました岡部長と申します。私はこれまで青少年委員のみなさまとは様々な場面で関わりを持たせていただき、地域の宝である子どもたちの健やかな育成のために先頭に立ってご尽力いただく姿を間近で拝見してまいりました。こうしてまた、みなさまとご一緒できることを大変うれしく思うとともに、さらに精進してまいりたいと決意を新たにいたしました。

青少年委員制度は今年70周年を迎えます。当初8名でスタートした委員も、現在では58名のみなさまにご活躍いただいています。この間、青少年を取り巻く環境は大きく変化してまいりましたが、変わらないのは、子どもたちを地域で支えていこうとする気持ちであり、それを率先してくださる委員の熱意だと思えます。これもひとえに長きにわたりご活躍いただいております川島英夫会長をはじめ、歴代の会長、そして委員のみなさまのご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

今後とも本区の子どもたちが健やかで生き生きと成長することができるよう、私もみなさまと力を合わせ取り組んでまいります。

結びに江戸川区青少年委員会の益々の発展とみなさまのご活躍を祈念し、ご挨拶いたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。



文化共育部長 岡部長 年

青少年委員のみなさまと共に

## 第41回江戸川区民ラジオ体操大会

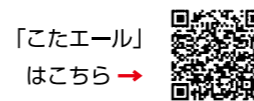


第41回江戸川区民ラジオ体操大会が7月22日(土)に都立大島小松川公園自由の広場で開催されました。天候不順やコロナ禍で中止が続く6年ぶりの開催でした。

青少年委員会は従事団体として地元小松川地区の7名を中心に10名の委員が参加して、スポーツ推進委員と共に早朝より、配布物の準備作業を行いました。6時10分より、江戸川区ラジオ体操協会の高木会長による開会宣言のあと、斉藤区長の挨拶などの式典が済むと、いよいよNHKのラジオ放送に合わせて全員によるラジオ体操が始まりました。

広々とした公園に広がった2千人近い人が一斉に行うラジオ体操は壮観でした。

## 地区委員会合同研修会



7月4日(火)に地区委員の研修として「ネット・スマホのトラブル最新事情と子供を守るためのファミリールール講座」を受けました。

ネットトラブル事例を具体的に紹介してもらい、大人である私たちでも、驚きと恐怖を感じました。

そして、子どもたちに伝える大切な話は、子どもだけで考えるのではなく、身近な大人に相談することでした。

また、私たち大人は、インターネットトラブル相談窓口として「こたエール」を活用することが最も大切だと思いました。

文責 小岩地区部会 中川 隆

## 新委員紹介



やまくち ひでゆき 山口 秀行 葛西北地区部会(葛西) 令和5年8月1日委嘱

## あともがき

夏に花火大会が、秋には区民まつりが開催され、私たち青少年委員会もボランティアに従事しました。

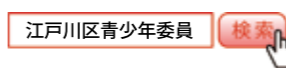
日常が帰ってきた事をひしひしと感じています。皆さまも同様ではないでしょうか。忙しくなってきたら、皆さまの身近な相談相手として青少年委員会活動を紹介していきます。どうぞご覧ください。

広報部一同

### 江戸川区青少年委員 ホームページ



こちらの二次元コードを読み込んでいただくか、「江戸川区青少年委員」で検索してください。



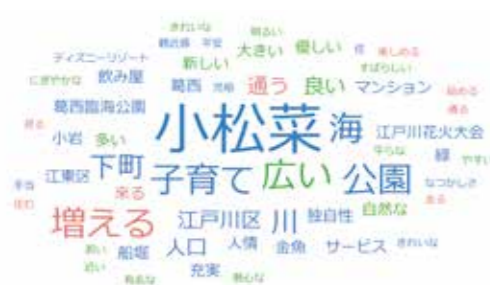
発行 江戸川区青少年委員会  
編集 広報部  
連絡 江戸川区文化共育部  
健全育成課 育成活動支援係  
☎ 03(5662)0357

# 令和5年度 東京都青少年委員会連合会 城北ブロック研修会 研修テーマ：「みんなで考える、これからの共生社会」

日時：令和5年9月2日(土) 13時～16時20分 (懇親会 16時40分～18時40分)

会場：タワーホール船堀2階 平安 (懇親会：タワーホール船堀2階 瑞雲)

## 第2部 グループ討議



※ユーザーローカル テキストマイニングツール  
(<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析

両側からの活発な意見が発表されていきました。なかには映画に感動して涙がとまらず、十分な意見の発表ができませんでした。まだまだコ

映画の鑑賞に続いて、7つのグループに分かれて意見交換を行いました。最初に自己紹介と江戸川区以外の委員の方には江戸川区のイメージも発表していただきました。ほとんどの方が、「小松菜海」や「子育てがしやすい」などの良いイメージを持っていられたようですが、「ゼロメートル地帯」「一緒に水没しそう」など城北エリア全体に共通する問題点も出ていました。続いて、映画の感想を含めた「共生社会で何ができるか」をテーマに意見交換を行い、私が担当したグループでは、知的障害をもったお子様のいる委員の方が2名いました。そして私自身に身体障害があるため、健常者としてどのようにサポートできるか、障害者としてどのように

### 懇親会も開催しました！



ナやインフルエンザなどの感染症の影響は続いています。久々の研修大会は非常に有意義なものであったと思います。  
文責 東部地区部会 鷺尾 齋

## 第1部 映画上映会

令和4年、江戸川区では区が目指す共生社会の姿を描いた長期構想「共生社会ビジョン」が完成しました。「ともに生きるまち」を合言葉に一人一人の違いを認め合い、互いに支え合いながら安心・安全に生きる社会を目指します。第1部で上映した「みんなの学校」は、支援が必要な子ども、必要でない子ども、みんなが同じ教室で学ぶ公立小学校の1年間を追ったドキュメンタリー作品でした。担任の先生だけでなく、保護者や地域の人も含む大人たちみんな子どもたちを見守り、お互いにみんなが学び合う姿が描かれていました。学校が変わり、地域そして社会が変わっていく姿には「ともに生きるまち」を目指すヒントがあったと思います。青少年委員制度70周年記念事業として、地区委員の方々も鑑賞していただく機会を設けています。

文責 小松川地区部会 村上 則俊



# 青少年委員紹介

青少年委員の方々を皆さんにもっと知ってもらうため、前号に続き青少年委員を紹介します。

**氏名** 米川 和則

**所属** 葛西北地区部会  
(葛西第一地区委員会)



- ①娘が第六葛西小学校一年生の時に「お父さんを学校に呼ぼう」というコンセプトからおやじの会を発起し、父親として敷居の高かった学校の門をくぐり、父親と学校のつながりができました。子どもたちの表現の豊かさや笑顔に喜びを感じ、父親同士が仲間となり輪が広がりました。その後西葛西中でPTA会長を拝命し地区委員会の活動にかかわるようになりました。当時の委員長より青少年委員への推薦を受け、引き受けました。
- ②洋食の料理人なので料理一般とお酒は得意です。第六葛西小のおやじの会「六雄会」(第六の六・オスの雄・会)で料理教室を開催したこともあり、子どもたちと料理に関する知識や技術を伝えられればと思います。
- ③人として当たり前のことである、人と人のかかわりコミュニケーションにおける心の豊かさを身につけること。上下関係や横のつながりに必要なあいさつ運動・礼儀・信頼性などを促すイベントを開催してみたい。

**気分転換・ストレス発散の方法**

週三回スポーツジム通い。露天風呂めぐり・ゴルフ・サイクリング

**氏名** 上島 幹子

**所属** 小岩地区部会  
(南小岩地区委員会)



- ①小・中学校でPTA活動をしていた時に、当時の地区委員長が同級生のお父さんで、「子どもが中学を卒業したら青少年委員を」と常々お願いされていました。子供が中学校を卒業したタイミングで青少年委員を引き受けました。
- ②ドッチボール、バドミントン、サッカー、鬼ごっこなど子どもたちといっしょに遊ぶのが好きです。
- ③子どもたちにもっと紙芝居に親しんでほしいという思いや紙芝居を通して江戸川区に伝わる昔話を知ってもらいたいと思います。地域まつりやすすくスクールのイベント、担当小学校の朝の読み聞かせなどで紙芝居を口演しています。

**気分転換・ストレス発散の方法**

コロナ禍の中、見ていたテレビ番組でTWICEのファンになり、韓国ドラマを見てチャウヌのファンになり、中学生の姪っ子と推し活を始めました。昨年はTWICEのライブ、チャウヌのファンミーティングに行き、今年もチャウヌとTWICEのライブに行きました。ライブは声出しもOKになり、大きな声で声援したり一緒に歌ったり、目で見て癒され声を出してストレス発散しています。また韓国ドラマを字幕なしで見たいと思い、休みの日は韓国語教室に通い楽しく勉強しています。

質問は ①青少年委員になったきっかけ、②趣味や特技、自慢できること ③今後青少年委員としてやってみたい事です。また今号では、気分転換・ストレス発散の方法を、皆さんに紹介頂きました。



**氏名** 関 清孝

**所属** 中央地区部会  
(西小松川地区委員会)



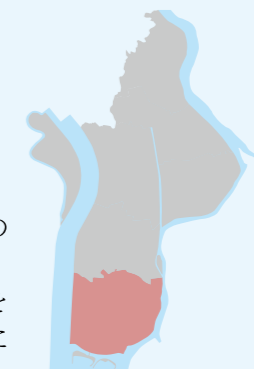
- ①小学校のPTAや子ども会の役員を長く務めさせていただき地区委員会にも関わりを持つようになりました。会議や各種行事などに参加する度に地区委員長とお顔を合わせる回数が増えていました。当時地区委員会から選出される青少年委員の定数に欠員があったことから、地区委員長の熱心な口説きに屈して、青少年委員を引き受けることとなりました。
- ②仕事に関連しますが職業柄、樹木名や草花のことなら子どもたちに教えることができます。
- ③江戸川区は公園に多くの樹木が植えられ、とても緑が多いところです。その樹木たちの特徴、特に匂いや手触り、味、樹木の見分け方などをレクチャーして子どもたちと一緒に活動できればと思っています。

**気分転換・ストレス発散の方法**

休日は気晴らしに散歩に出かけます。コースは江戸川競艇場辺りまで行くことが多いです。たまには船堀駅近くまで行くこともあります。スタンプラリーなどイベントに参加して長距離を歩くこともあります。雑草や草花、木々の四季折々の状況を観察しているうちに気持ちが落ち着いてきます。程よい疲れで帰宅しアルコールを流し込めば深い眠りにつくことができます。

**氏名** 木下 眞理子

**所属** 葛西南地区部会  
(葛西第二地区委員会)



- ①自治会役員や小・中学校のPTA活動を通して地区委員会の活動にかかわるようになりました。当時の地区委員会の副委員長さんから青少年委員への推薦を頂きました。子どもたちが小学生の頃お世話になった地域に微力ながら少しでもご恩返しできればとお引受けしました。
- ②十代のころから区内の施設で茶道のお稽古をしていました。子育ての時期を経て、数年前から再度お稽古に通うようになりました。茶道は所作やお点前だけでなく、日々の雑事から離れて非日常を楽しみ、日本の伝統文化に触れ、ゆったりと季節の移り変わりを感じられることが、心地よいです。
- ③教えられることはとても少ないですが、とにかく地域の子どもたちと一緒に遊ばないかと思っています。

**気分転換・ストレス発散の方法**

あまりストレスは感じない方ですが、あえて言えば推し活です。推しへの愛、推しの声を聴くことです。いま、一番の推しはぐんちゃん♥。チャンゲンソクさんのアクリルスタンドと一緒に旅行に行った(つもり)、一緒にご飯を食べた(つもり)になり、暇さえあれば歌声を聴いて癒されています。休日は推しのグッズで溢れかえった部屋で、ゴロゴロしながら、曲を聴く時が一番幸せな時間です。

### 第48回江戸川区花火大会に従事して



4年ぶりに江戸川区花火大会が8月5日(土)に江戸川区河川敷で開催されました。多くの方々が夏の夜空を彩る一万四千発の花火に魅了されました。私たち青少年委員は、熱中症に注意をしながら各部会ごとに篠崎街道で観客の誘導に従事しました。無事、花火大会が終了したことに改めて感慨深い時間を過ごさせていただきました。

文責  
東部地区部会

小林 智夫

### 第46回江戸川区民まつり

10月8日(日)篠崎公園にて、5年ぶりの区民まつりが開催されました。数ある催しの中で、青少年委員はポイントゲッターを担当しました。当日は曇りがちでしたが、2000人を超える方にポイントゲッターを楽しんでいただきました。篠崎公園が工事中でしたが、大きな問題もなく、私たち自身も楽しみながら活動できました。

今年の区民まつりでは、みんなの広場でティラノサウルスレースが行われました。私たち青少年委員は、スポーツ推進委員や共育プラザの中高生と一緒にレースの運営をしました。ティラノサウルスの着ぐるみを着て走る姿は、とてもユニークで大変盛り上がりしました。

文責

葛西北地区部会

森口 安子



### 5月定例会 講演会 「大切ないのちを守るために誰にでもできること」



自殺対策では、悩んでいる人に寄り添い、関わりを通して「孤独・孤立」を防ぎ、支援することが重要と感じました。「ゲートキーパー」とは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる人のこと

で、言わば「命の門番」とも言われています。何かあった時には電話相談を実施しています。  
#いのちSOS江戸川  
0120-0611338

文責

鹿骨地区部会

井上 功

### 6月定例会 江戸川区子ども会連合会との交流会



青少年委員会の重点目標である子ども会との連携強化を図るため、江戸川区子ども会連合会(区子連)の金杉会長をはじめ各支部の方々をお招きしてグループ討議を実施し、区子連の活動や現状について理解を深めました。

文責

葛西南地区部会

三木 佳代

### 9月定例会 補助犬に関する講演・実演会



補助犬は体に障害のある人の目や耳、手足となつて働くよう訓練された犬で、「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」の総称です。今回の研修会では現役盲導犬のラブラドル・レトリバーがユウザーからの指示を受けて行動する姿を見せて貰いました。また、訓練中の介助犬が携帯を拾い上げる様子や、音を聞いて知らせる聴導犬の様子など、街中では見ることのできない活躍を知ることができました。

文責

小松川地区部会

塚原 久美子

### 7月定例会 避難所運営ゲーム(HUG)体験



HUGとは避難所での出来事や避難者対応をゲーム感覚で模擬体験するものです。今回は小学校を避難所とし机上で各グループごとに運営を体験しました。スピードを重視しながら、感染対策や様々な人々のニーズに応え、部屋割りや配置をしていくことの難しさを知りました。

また、運営側でもそれぞれの考え方や価値観があり、意見をすり合わせる事の難しさを感じました。

定例会でHUGを体験でき、多くのことを学びました。

文責

葛西北地区部会

片岡 昇